



こどものみらい叢書 第6弾!

ワンダーランドに 卒業はない

中島 京子

空想が日常の子ども時代、だれもが異世界へと旅する時間を持つ。
物語に没頭する喜びは、ずっとあなたを支えてくれる。
本を開いて、自分の中の子どもに会いにいこう。
『クマのプーさん』から『ゲド戦記』まで——作家を育てた18の物語。

**中島京子** (なかじま きょうこ)

1964年、東京都生まれ。東京女子大学文理学部史学科卒。

出版社勤務、フリーライターを経て、2003年『FUTON』で小説家デビュー。2010年『小さいうち』で直木賞、2014年『妻が椎茸だったころ』で泉鏡花文学賞、2015年『かたづの!』で河合隼雄物語賞、柴田錬三郎賞、歴史時代作家クラブ賞、同年『長いお別れ』で中央公論文芸賞、2016年日本医療小説大賞、2020年『夢見る帝国図書館』で紫式部文学賞、2022年『やさしい猫』で吉川英治文学賞、同年『ムーンライト・イン』『やさしい猫』で芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。


取り上げられる作品

『クマのプーさん』 『プー横丁にたった家』 『銀河鉄道の夜』
『点子ちゃんとアントン』 『宝島』 『ハックルベリ・フィンの冒険』
『トム・ソーヤーの冒険』 『秘密の花園』 『鏡の国のアリス』
『ライオンと魔女』 『だれも知らない小さな国』 『ピノッキオの冒険』
『あしながおじさん』 『続あしながおじさん』 『ピーター・パンと
ウェンディ』 『モモ』 『二年間の休暇』 『小さなバイキングビッケ』
『ふくろ小路一番地』 『トムは真夜中の庭で』 『ゲド戦記』

本文からの抜粋

『プーさん』ほどに、完璧に、あの特別な時間と空間を、しっかりと閉じ込めた本はない。この本が世に出てから、まもなく百年が経とうとしているけれど、あいも変わらず子どもの心をとらえて離さないのも、大人にとってもことあるごとに読み返したくなるのも、『プーさん』の世界がホンモノで、そしてそれがわたしたちにとってたいせつなものであるからにほかならない。
(第1章「ことばを遊ぶ、ことばを転がす」より)

■トーハン、日販、楽天ブックスネットワーク、子どもの文化普及協会 経由にてお送りいたします。
トーハン、日販、楽天ブックスネットワークの場合、
返品はフリーでお受けいたします。(了解者：朝加)

こどものみらい叢書®『ワンダーランドに卒業はない』 中島京子 著 定価 1,760円 (10%税込) 2022年7月刊行 四六判・並製/214頁 ISBN978-4-7907-1772-0		書店印
お名前	ご注文冊数	冊
 世界思想社 〒606-0031 京都市左京区岩倉南桑原町56 電話：075-721-6500 FAX：075-721-8707		